

香川医療生協 医学生 奨学生 募集中。

奨学金制度 の趣旨

この奨学金制度は、医学部卒業後に香川医療生協・香川民医連の病院で研修し、地域医療に参加しようとする医学生を対象に、勉学などの経済的な援助を行う目的で設けています。

奨学金概要

一般	1～2年生	5万円/月額
	3～4年生	6万円/月額
	5～6年生	7万円/月額
特別	全学年	12万円/月額

※返済免除規定あり

奨学生になったら

- point ① 全国の医学生と学び合えるチャンス！
- point ② 低学年から病院実習をかさねて将来の医師像を掴める！
- point ③ 学生生活中的サポートが手厚い！

高校生予約奨学金制度
もあります。

申し込みは随時受け付けています。お気軽にお問い合わせください。

香川医療生活協同組合

厚生労働省
指定臨床研修病院 **高松平和病院**



〒760-8530 高松市栗林町1-4-1
tel.087-833-8113(代表) fax.087-833-8759

学生サポートセンターみき



〒761-0701 木田郡三木町池戸1538-1森ハイツ1F

お問合せ・連絡先

高松平和病院

学生担当 / 浦宗・野口・花谷
tel.070-1258-6360 mail:heiwhp@gmail.com

香川民主医療機関連合会
高松市栗林町1-6-4
tel.087-836-9375
fax.087-836-9376



ブログ更新中

<http://www.heiwhp.com/>

高松平和病院 医学生・研修医のページ

検索

～日々の学習企画案内・報告をblogで随時更新中～



発行元：香川民主医療機関連合会

2018 SUMMER

KIMAI

Vol.11



キマイ=讃岐(さぬき)弁で「来てね」という意味

CONTENTS

- ・研修医座談会
- ・患者さんとの心温まるエピソード
- ・若手医師の育児日記
- ・わたしのオススメ
- ・病院実習
- ・企画報告～熊本震災後ボランティア～
- ・ISHIMESHI・私の仕事・編集後記

医学生と
香川民医連を
むすぶ情報誌

香川民主医療機関連合会

研修医 座談会

夢見ていた医師像と現実に 違いはありましたか？

半山 「小学校の頃はバリバリの外科医に憧れていましたが、QOLやワークライフバランスを考えた時に、実際に自分が選ぶ科とは違っていました。」

安田 「テレビドラマでは外科や救急にスポットが当たったものが多いから、小さい時にはどうしても憧れの対象にはなりやすよね。僕も最初は外科に憧れていたからね。」

半山 「そして大学の実習の時に初めて外科の大変さに直面する(笑)。」

安田 「確かに実際カッコイイ段階に行くまでの大変さがすごいよね。」

半山 「そうですね。それを踏まえてでも外科を選ぶ人はすごいと感じます。ただそれが出来ないから行けないわけではなくて、それじゃない自分に合った他の道の選択肢が意外とあったと思う。大学を出て「そういうのいいなあ」と思う事もありました。」

今回の座談会は…
高松平和病院で研修をしてみて
感想や、ストレス解消法などをお聞きました。

高松平和病院で研修をしている 感想を教えてください。

安田 「後期研修ですが、身近でいろいろな疾患を診れる事が良いと思います。」

半山 「そうかと思えばたまに心筋梗塞や大動脈解離の患者さんも診る事があります。地域の病院なので一般的な疾患を頻度に応じて診る事ができますよね。私が最初に診たのは尿路感染とか肺炎で、感染症から勉強できたのは初期研修としてはありがたかったです。」

安田 「ここでは特殊な治療は出来ないけど、診付けてあげて診断をして、必要な大きな病院に送ってあげる事にやりがいを感じます。」

半山 「それと病院の雰囲気はいいと思います。」

安田 「医師数がそれ程多くないので皆が知り合い。」

半山 「医局の全ての先生に気軽に相談できる環境にありますよね。病院全体で研修医を育てようという雰囲気で助かっています。医局間や、職種間の垣根が低くて良いです。」

安田・半山 「何でも、何処でも聞きやすい!!」

ストレス解消法は何ですか？

半山 「安田先生は娘さんでしょ?」

安田 「ですよ!会うだけでストレス解消になります。家に帰ったらニコッと笑ってくれる瞬間がたまりません。」

半山 「私は1人暮らしなので、黙々と料理をしたり休日にお菓子を作ったりしています。料理をしながらつまみ食いをする楽しさも知りました。あとはカラオケやバッティングセンターに行ってエネルギーを発散したりします。もともとソフトボールをしていたので体を動かす事が好きで、時々ランニングもしています。」



医学生・高校生への メッセージ

半山 「勉強以外で社会に触れながら、学生時代にしか出来ない事をしてほしいと思う。意外とどこかで役にたったりしますよ。私も学生時代にしていたしようもない事が、医師になって患者さんとの会話に出て来たりして「やっとなあ」と思う事も意外とあるし、香川の学生さんなら香川の事は知っていてほしいですね。きっと将来役に立ちますよ。」

安田 「そうだね。方言とか診察室では役にたつよ。」

安田・半山 「勉強はすべき時にして。遊んで下さい(笑)」

高松平和病院 後期研修医

安田 理 医師

Doctor Osamu Yasuda

profile

香川大学2015年卒業

大阪府出身 茨木高等学校卒



高松平和病院 初期研修医(2年目)

半山 栞 医師

Doctor Shiori Hanyama

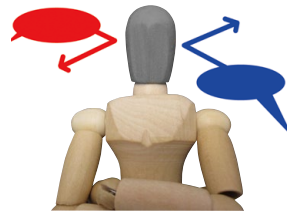
profile

香川大学2017年卒業

香川県出身 高松高等学校卒



「自分のことは自分が決める」



突然の死

いつものようにアパート1階のドアをノックし、「こんにちは。みき診療所です。往診に参りました。」と声をかけ、狭い玄関を勝手に入っていく。Aさんは気管切開をしていて声が出ないのを知っているので返事を待たずに室内に入るのはいつものことだ。いつもと違うと感じたのは浴室からシャワーの音が聞こえていることだった。Aさんは私たちが訪問する時刻を見計らいシャワーを浴びてベッドの上で待っていることが常だった。ちょっと早く到着し過ぎたかなと思いながら浴室のドアが空いていてシャワーの水だけが流れているのに気づいた。嫌な予感がした。

次の瞬間、狭い廊下の向こうのいつものベッドの上ではなく床に裸で横たわっているAさんを発見した。呼びかけ、体を揺するが反応がない。髪も濡れたままで触れたAさんの体があまりにも冷たかった。まだ1月の真冬だ。

病院を退院し在宅生活を始めたAさんは自分で気管切開口から吸引カテーテルを挿入し、自分で喀痰を吸引していた。ところがこの時、吸引器のスイッチは入ったまま。ブーンという音が虚しく部屋に響いていた。テレビも室内灯もついたままである。

いつかこんな時が来ると予想していたとはいえ突然の死である。Aさんの表情が苦痛に満ちていなかったことが慰めとなる。定期的に訪問しているヘルパーさんや看護師さんが第一発見者でなく医師である私でよかったとも考えた。

床の上でAさんを仰向けにし、看護師と協力しながら近くににあった衣服を着せた。呼吸、心音停止、瞳孔反射消失など型通りの診察をする。死後硬直もない。最後に前頸部より気管ニューレを抜去して内腔を確認する。粘稠な喀痰で閉塞していた。いつものように往診の私がある前にシャワーを浴びていて急に呼吸が苦しくなり、2-3m



先にある吸引器まで裸のまま慌てて移動したが力尽き、倒れてしまったのではないかと推察した。事件性もないと判断し、死亡診断書を記載することとした。50歳代男性、短い命だった。

病歴

Aさんは10年前に筋ジストロフィーを発症。3年前に交通事故で外傷性くも膜下出血と誤嚥性肺炎で人工呼吸器管理中に本人の意思確認がないまま遠い県外在住の親族が呼び寄せられ、署名により気管切開が施行された。その後経口摂取は少量のみで主たる栄養は経鼻栄養チューブからとなった。入院中、隠れて売店で買ったものを食べ、嘔吐したり、無断で病院を離脱するなど問題患者となった。知らない間に気管切開を受けたこと、声も出ない、食事口からとれないこ

とに納得がいかなかった。病院主治医は気管切開からの吸引、経鼻栄養の必要性、一人外出の危険性などから退院許可の出せないことなどを説明した。ところがAさんは「主治医からの説明は理解したが同意できず、退院する。自宅で容態が急変しても一切病院の責任は問いません。」と強い意志を表明した。

在宅生活

退院前カンファレンスが私たちが在宅チームに呼びかけられ患者さんの在宅生活を支える準備が始まった。ヘルパーたちが荷物の散乱している部屋を片付けようとしても拒否、訪問看護師がケアしやすいようにベッドの方向を変えようと提案しても拒否。それでも在宅チームはそれぞれの立場で患者さんの意思を尊重し、関係性を築いていった。急な病状変化の時には訪問看護にメール、あるいは警備会社への緊急コールすることなど話し合って機器を設定した。

意思表示

在宅担当医である私は2週間ごとに経鼻チューブ、気管力ニューレ交換を行っていたが2ヶ月ほど経過した時、Aさんは自分で経鼻チューブを飲み込みたいと希望した。本人の意思

を尊重するつもりだったが自分で経鼻チューブを挿入したいと言った患者さんは40年間の医師人生の中で初めてだ。目の前でAさんが安全にチューブを飲み込むところを確認して許可した。以後Aさんは夜にチューブを飲み込み自分でラコール（流動栄養剤）を注入するようになった。

4ヶ月頃には肥満傾向になったためどんなものを食べているか質問してみるとカップラーメン、あんパンなど食べているもの、食べにくいものを筆談で教えてくれた。口から栄養が十分とれているではないか。これを機会に経鼻チューブからの栄養は中止することとした。

8ヶ月頃再度Aさんに質問してみるとネットで注文したレトルト食品が月2回郵送されてきており、1年間分を注文したとのこと。この頃には電車に乗って一駅離れたマーケットに買い物に行ったり、パチンコ（昔はパチンコで生計を立てたことも）に行ったり障害がありながらも自由な行動を謳歌しているように見えた。

添削と承認

カンファレンスや学会の前にAさんを訪ね、発表の承認を頂く時があった。自分の病歴や職歴の書かれた全ての資料に目を通し、私の間違いを添削し、筋力の衰えた手で承諾の署名をした。発表後、レポートをAさんにみせるとベッド上にすわってゆっくりと目を通し最後ににこっと笑顔をみせてくれた。この学生向けの小文にもAさんが天国から公表承認のサインを送ってくれていること信じ、Aさんとの物語をこれからもわたしは語り続けていきたいと思っています。



生協みき診療所 所長

田中 眞治 医師

Doctor Shinji Tanaka

profile

香川県出身

愛媛大学1979年卒業

高松高校卒

若手医師の 育児 日記

(植本一駿医師)
Vol.2



高松平和病院

植本一駿 医師

Doctor Kazutoshi Uemoto
profile
岡山県出身
香川大学2014年卒
岡山理科大学附属高等学校卒

▲育児休暇を終え一駿医師は後期研修
真由医師は初期研修に励まれています。

高松平和病院

植本 真由 医師

Doctor Mayu Uemoto
profile
滋賀県出身
香川大学2015年卒 膳所高等学校卒

子供が保育園に入園してから、少しして職場復帰となりました。

職場では初日から仕事が多量に舞い込んでくるので、僕がいない間に他の先生やスタッフに迷惑を掛けていたのではないかと感じました。しかし、そういった感傷に浸るまもなく仕事が終われば保育園のお迎えに行かなければなりません。高松平和病院には院内保育がないので、仕事を早く切り上げざるおえず、結局迷惑を掛けているようにも感じます。ただ、家に帰れば食事の用意や膨大な洗濯ものに追われて、気づけば一日が終わっているといった感覚です。

そうはいっても、子供と一緒に時間は癒やされる

もので、平日の夜や土日は出来るだけ近くにいるように心がけています。外にも出来るだけ連れて行くようにしていて、5月の連休中にはキャンプや旅行にも連れて行きました。子供より親の方が楽しんでいたように思いましたが、これからは家族の思い出を積み上げて、まっすぐ成長してもらえたらと思います。

まだ1歳4ヶ月(5月時点)なので、あまり言葉はしゃべられないですが、カエルの歌を歌ったり、親の話す言葉をまねしたりと日々の成長に感動しっぱなしの毎日を過ごしています。あとは保育園に預けるときの、泣かなくなればいいかな、と思います。



▲保育園にお迎えです。



植木 昭彦 医師

Doctor Akihiko Ueki
高松協同病院 副院長 リハビリテーション科医 愛媛県出身 香川大学1995年卒 愛光高等学校卒

小学校4年生の時に、大判の「時刻表」に出会って以来、私の趣味は「鉄道」一直線。小6から「鉄道ジャーナル」を1度も欠かさず現在まで毎月定期購読し、中学高校は「鉄道研究部」で鉄道模型や写真撮影に全財産を注ぎ、大学時代は「青春18きっぷ」を愛用。医師になっても、学会や出張のときに、様々な方法を駆使して「乗り鉄」を続けています。忙しいときは職場の同類と、「鉄分補給に行かないと…」などとぼやいています。四国育ちの鉄ちゃんには、「列車」と「電車」の使い分けが、医療における「清潔」・「不潔」の区別くらい重要です。みなさまもお気をつけ下さい。

出張の朝、岡山駅でキャッチした500系こだま▶



石井 晶子

Akiko Ishii
高松平和病院 リハビリテーション科 作業療法師



▲入院中の患者さんへ娘と二人で演奏会のプレゼント

わたしのお気に入りには…『歌』です。歌好きが高じて娘に優歌と名付けたほど。

歌うことも歌を聴くことも大好きです。先日は高校生の娘と院内でミニコンサートをしました。小児リハビリの訓練の中でも、一緒に歌ったり音楽を聴くとどの子も表情がキラキラします。

声を出すことそのものはストレス解消になると言われています。カラオケに行って大声で歌ってスッキリ!という経験、ありませんか? 歌うのはちょっと…と言う人でも、声を出すことはストレス解消になると言われています。歌うように楽しくおしゃべりしたり、大声を出して笑ったり。

楽しく歌うこと、おすすめです!しっかり声を出して、ストレスフリーな生活を過ごしましょう!!

山下 聖貴

Masataka Yamashita
高松平和病院 放射線科 臨床放射線技師

私の趣味というか、コレクションの一つが漫画『ONE PIECE』を集めることです。皆さんご存知のことと思いますが、『ONE PIECE』は尾田栄一郎による日本の少年漫画作品、『週刊少年ジャンプ(集英社)』にて1997年34号より連載中で略称は『OP』、『ワンピ』でストーリーは海賊王を夢見る少年、モンキー・D・ルフィを主人公とする『ひとつなぎの大秘宝(ワンピース)』を巡る海洋冒険ロマンです。

2018年3月現在、単行本は88巻まで発行されており、日本の漫画では、最高となる3億6000万部を突破しています。

今、現在もTV放送されていて、劇場版も13作品、歌舞伎の世界まで進出していて、まさに全世界に通ずる漫画と感じています。あと、7月22日は連載開始日となった日で、『ONE PIECEの日』と制定されたみたいです。

大人も子供も夢中になれる漫画の1つです。読んだことがない人は1度は読んでみてはどうでしょうか?



▲本棚に並ぶ『ONE PIECE』

病 院 実 習

香川医療生活協同組合では、随時病院実習の受け入れを行っています。医学生さんが興味のある分野の実習を担当者と話し合いオーダーメイドの実習を体験してもらう事ができます。今まで行われた病院実習を少しご紹介します。

受持ち患者体験実習

主治医の医師と一緒に一人の患者さんの担当をしてもらいます。

主治医にアドバイスをもらいながら現病歴を理解していく実習です。入院中の患者さんの担当医になって、学生さん用に作成された紙カルテを使いながら、患者さんの問診等を行ってもらいます。そうした事から患者さんの生活背景や労働環境などを把握し退院後のプランまでのプレゼンを行ってもらう実習です。



▲受け持つ患者さんの説明を主治医から受ける。



▲受持ち患者さんの病室に問診を取りに行く。



▲自分が取った問診をもとに患者さんの退院後プランを主治医にプレゼンする。

感想

- 患者さんとの何気ない会話の中から必要な情報を聞き出すのは難しかったが、退院後のプランを考える為にも情報収集する事の重要性が理解できた。
- 医学の勉強も大切だが、患者さんとのコミュニケーションの取り方なども学ばないといけない事を知った。

「内視鏡カメラの見学」「外来見学（内科・小児科・整形外科）」「回復期リハビリ病棟の見学」「訪問診療同行」「病理室見学」など、病院実習をして頂くことが出来ます。ぜひ、夏休みを利用して香川医療生活協同組合に病院実習に来て下さい！

病院実習受入担当窓口

高松平和病院 医学生担当 野口・花谷・浦宗
TEL(代表):087-833-8113 E-mail:heiwa@gmail.com



小児科実習

小児リハビリ・臨床心理士・病児保育などもあり小児のチーム医療が見学ができます。



▲臨床心理士から診療で使う「箱庭」の説明を受ける



▲リハビリ職員から小児リハビリについての説明を受ける。

感想

- こどもクリニックでは多くの職種の方々が連携して医療を行っている事を知り、どの職種の方も患者さんの思いを優先して治療に携わっている事に感動した。

ホスピス緩和ケア病棟

当院には香川県でもまだ珍しいホスピス緩和ケア病棟があります。



カンファレンスの参加

様々な職種が集まって患者様やそのご家族をサポートする為にいろいろな視点から治療方針を立てています。患者様の立場を最優先に考えたカンファレンスは学生さんが見ても感動するそうです。



ホスピス緩和ケアボランティアの体験

当院では患者様が少しでも心地よく入院生活が送れるように一般ボランティアの方たちがコーヒーサービスやお花を飾ったりしています。ボランティアさんと一緒にお花を生けたりしてもらっています。コーヒーサービスでは患者様から直接お礼の言葉を掛けて頂いて喜びを感じるそうです。

感想

- 緩和ケア病棟では治療を行うのではなく、相手の気持ちをくみ取ってケアを行って行く事が分かった。

企画報告

熊本震災後ボランティア

3月9日(金)～10日(土)の日程で、熊本県で震災後ボランティア(熊本震災FW)を行いました。1年間、※坂の下ミーティングで、震災医療について学んできた集大成で「実際に震災支援がしたい!」「誰かの役に立ちたい!」との気持ちが実現した企画です。参加学生は医学生7人と看護学生が2人で、学年も1年生～国試終わりの6年生まで様々な顔ぶれでした。

※坂の下ミーティングは月に1度「学生サポートセンターみき」に学生が集まり、食事をしながら医療の事や社会情勢など関心がある事を学んでいく会議です。

1日目

くわみず病院看護部長の川上和美さんに「熊本地震～震災を通して見える民医連の医療活動」のタイトルで講演を行って頂きました。講演後は2班に別れてSGDを行い、翌日行うボランティア活動の獲得目標などを話し合いました。



▲講師の川上和美看護部長



▲2班に分かれてのSGD

2日目

震災被害の大きかった益城町にある広崎仮設団地の集会場でボランティアを行いました。2年もの間、仮設住宅に住まわれている方々の心と身体が癒せればと…何カ月も前から「足湯」「ハンドマッサージ」「抹茶振る舞い」の練習をしていました。11名の方が参加され口々に「気持ちいい。ありがとう。」など感謝の言葉を頂きました。



▲足湯でリラックス



▲仮設住宅集会場前にて

感想

- 多くの被災者が医療費を負担を感じ、社会制度に不満を感じていることを知りました。
- 医療者になるにあたり、患者さんに医療制度を発信できるよう知識を備えておく必要性も感じました。
- 何かしてあげたいという気持ちがあれば、技術や知識がなくとも、被災者に喜んでもらうことができるということ。



▲再建中の熊本城

私の仕事



高松協同病院
医事課

東山 智洋

高松協同病院で医療事務をしています東山です。私の所属している部署は医事課です。

医事課の仕事とは、外来業務、入院業務、保険請求業務、統計業務が主な仕事です。診察は医事課の受付から始まり、会計を終えて終了となります。しかし、医事課の仕事はここで終了ではありません。保険請求業務といって、患者様が窓口で支払われた金額を引いた治療費を保険者に請求しています。患者様の治療費を正確に保険請求ができるようにしなければいけません。事務は病院を運営していくにあたって、私自身重要な部分だと思っています。

また、私がいつも業務をするにあたって大事にしていることは、「人と人とのつながり」です。病院では様々な職種の方が業務を行っております。病院というのはそれぞれの部署が一つでも欠けるとはいえないと思っています。だからこそ、多職種との連携を大切にしなければいけません。

そして事務は、患者様や専門職種をしっかりと支えていける、つなげていける、そのような柱になれるように日々精進していきたいと思っています。

編集後記

4月より毎週水曜日に学生サポートセンターみきで「ランチミーティング」を開催しています。学科や学年を越えて、毎回15名前後の学生さんが参加してくれています。自慢の料理を掲載します。(笑)



▲料理には必ずデザートがつき学生さんから高評価を頂いています。

[アンケートはがき・KIMAI2017春号の感想]

- 妻と夫が協力して育児し、個人のキャリア形成に努力している姿が良いと思う。(医学科1年)
- 緩和ケアについて知りたかったのでとても興味深かったです。完全に医療に頼り過ぎるのではなく、一人一人が自分の好きなように最後まで生活する生き方は素敵だと思う。(高校3年)
- 私のオススメでは医師の面白い一面が見られて良かったです。(高校1年)